本照寺だより

日蓮宗 常栄山

第74号
厚木市下古沢133
TEL・046-247-1156
FAX・046-247-1156
振替・0230-7-35749
（加入者名・本照寺）
発行所
本照寺・須藤教裕
携帯090-9151-6438

お水屋が奉納されました

■3月、写真のお水屋が新築・奉納されました。施主は長澤スミ江さん。父、秀胤さん、母、シマさん追善供養の志をお水屋に託されました（記念碑・写真㊦）。どうぞ、初めて寄られる時には、記念碑に長澤さんご両親の名前と法号が刻まれていますので、合掌を以て接していただければありがたいと存じます。

蛇口は2カ所と変わりませんが、写真㊧は「手水鉢・ちょうずばち」形式となり、手や口を清めます。

■以前から設置されていました長澤憲太郎さん奉納のお水屋は、最上段の水道蛇口へ設置いたしました。（「洗心」の鉢は以前からのものです）。

また、長澤スミ江さんは併せて「浄行菩薩像」を建立してくださる予定です。以下は「浄行菩薩」の説明案内となります。

「浄行菩薩」

【お釈迦さまは、ご自分がお亡くなりになってから2千年を過ぎると末法という時代になり、ご自分の説いた正しい教えが滅びてしまうとご心配なされました。そして、その時のために、上行・無辺行・浄行・安立行の四菩薩を、法華経を弘める導師とお定めになりました。ここに建立する浄行菩薩は水の徳をあらわす菩薩で、特に一切の穢れを清めることを行（願い）としております。

私たちは、お題目を唱えながら浄行菩薩を洗い浄めることによって、この菩薩の行（願い）をお助けすることになり、その功徳によって私たちの穢れを除くことが出来るようになるのです】

■ここに、改めて御礼申し上げます。長澤スミ江さん、ありがとうございました。

副住職のコーナー

今年も施餓鬼法要の時期が迫ってまいりました。お施餓鬼の卒塔婆の申込方法に関してお知らせいたします。

施餓鬼では、先祖供養のために多くの方が卒塔婆を建立されます。しかし、本数の多さから作成を漏らしてしまうことがあり、皆さまに多大なご迷惑をかけておりました。

そこで今年から、漏れをなくせるよう申込から作成の流れを見直します。今後、申込方法は以下の3種類とさせていただきたいので、ご協力のほど何卒よろしくお願いいたします。

施餓鬼 卒塔婆　申込に関するお願い

本照寺だよりの受取方	申込窓口	支払方法	お願い
世話人さんが配布	①世話人さん	世話人さんへ	・漢字の書き間違いにご注意ください
郵送	②施餓鬼卒塔婆の払込用紙	左記払込用紙で送金	・1月送付の付け届け用払込用紙・12月送付の倶生霊神符用払込用紙ではなく、7月に送付する施餓鬼卒塔婆の払込用紙にて申し込みをお願いいたします。
	③本照寺へ直接	申込時に事前支払い	・作成漏れを防ぐため、専用の申込書にて申し込みください ・年回忌法要の場合、当日のお支払いを受けておりますが、施餓鬼当日は大変立て込んでおります。事前のお支払いにご協力お願いいたします。

日本っていいな！

◆「ミシュランは星を与えたが、東京は軽く鼻であしらった……」これは東京がパリの3倍ほどミシュランの星を獲得した時の、ニューヨークタイムズ紙での報道です。そして以下は「日本はなぜ世界で一番人気があるのか」武田恒泰著・PHP新書からの抜粋です。◆『パリは1万3千軒、ニューヨークは2万5千軒、東京は16万軒。実はこれ、飲食店の数。東京が圧倒的である。日本は寿司屋やそば屋など専門店が多く、更にそばひとつとってみても天ぷらそば、きつねそば……等々。どんぶりひとつとってみてもカツ丼、牛丼、うな丼……等々。片やイギリス、ドイツ、オランダ、スイスなどは料理の数が非常に少なく、日本人だったら数日で飽きてしまうに違いない。ましてアメリカには料理文化は無いといっても差し支えない。しかし、それはまだ良い方だ。アラブの料理の少なさは、アメリカ人でも驚くほどだ。筆者はイラク滞在中に毎日、地元の名士に食事に招待されたが、どこに食べに行っても種類の少ない同じ料理しか出てこなかった。イエメンは更にひどく、豆を煮込んだものを食べる他に選択肢はなかった。ところが日本料理は多様である。たとえば給仕の違いによって会席料理、懐石料理、割烹料理、仕出し料理……等々。外国人が16万軒の専門店が並ぶ東京の景色を見たら、驚いて当然だろう』。

◆…心して、ありがたく、感謝していただきたいものですね。にっぽんっていいな。

お盆の大供養祭・お施餓鬼

■毎年8月16日、本照寺では「お施餓鬼供養会・おせがきくようえ」としてご先祖供養のため大法要を執り行っております。法要は午後2時から3時30分頃までです。

特に新盆を迎えられる方は必ず出席のもとご供養いたしたいものです。

■卒塔婆（そとうば）ご供養希望の方は、同封の「払込用紙」を用いお申し込みください。払込用紙の通信欄に「先祖代々」や「○○院○○信士・信女」など、どなたの卒塔婆を立てるのかを必ずご記入ください（未記入の場合は先祖代々とさせていただきます）。

■お施餓鬼当日は、お会式でお借りしている駐車場もお使いください。本照寺駐車場のカンバンを目印にどうぞ。

■卒塔婆は2週間以内にご自分でお立てくださるようお願いします。ご自分で立てられない場合はご連絡くださるか、申し込みをご遠慮くださるようお願いします。また世話人さんが本人の代わりに立てる習慣も改めたいですね。

■本年も新盆を迎えられるお宅へお棚経（たなぎょう）に伺いますが、例年お棚経に伺っていたお宅が限定となります。そうでないお宅でご希望の方はご連絡ください。■また今年から限定的にお棚経を再開します。別紙をご参照ください。

一泊お山しゅぎょうだよ

■今年は8月4日～5日の日程で第21回目の「お山しゅぎょう」が開催されます。別紙A4用紙2枚をご参照くださり、友人親戚、お誘い合わせの上、ご参加ください。

昨年参加の67名の小中学生とスタッフの皆さん

「実はこの世において、怨みに報いるに怨みを以てしたならば、ついにその怨みの止むことがない。怨みを捨ててこそ止む。これは永遠の真理である」法句経・ダンマパダ

■「私たちは少なくとも死なないために生きているわけではありません。では、何のために生きるのでしょうか。それは、人様のお役に立つためであり、そのためのひとつの方法論が職業であり……」などと私は通夜で話すことがある。今回、月刊「致知」467号・村上和雄・対談シリーズへ津川雅彦が登場した。「学びこそ我が俳優業の原点」との題名だが、前半一部が「人のお役に」とする内容だったのでここに紹介したい。

津川さんは死についてどういうふうにお考えですか？

村上和雄…昭和11年奈良県生まれ。筑波大学教授。遺伝子工学での世界第一人者。「スイッチONの生き方」致知出版社など。

津川雅彦…昭和15年京都生まれ。『狂った果実』で俳優デビュー。今年5月に妻、朝丘雪路と死別。

■**村上**　（前文省略）……現代人にとって多くの人が死とは敗北だと思っている。だから皆さんできるだけ長生きしたいと思っているけど、死の問題を解決しない限り人間は本当の意味で幸せにはなれないんですね。

日本人はもともと肉体が滅びても、精神とか魂といったものは命の源に帰るのだという考え方を持っていたんだけど、いまはそのことを忘れてしまっている。だから少しでも死を先延ばししようとか避けたいと思っているんですけど、死亡率百パーセントなので結局はみんな死んでしまう（笑）。

■**津川**　そりゃそうだ（笑）。

■**村上**　この問題を解決するためには、精神と呼ぶか魂と呼ぶかは別にして、そういう永遠に生き続ける命があって、肉体というのは単に借用しているということを分かってもらう必要があるのですが、**津川さんは死についてはどういうふうにお考えですか？**

■**津川**　子供の頃から不思議に思ってたことがあるんですが、世の中にこんなにたくさんの人がいるのに、どうして自分の眼からしかこの世が見えないんだろうとね。僕が眠っても地球は寝てないし、僕が死んでもこの世が終わるわけじゃない。世界は僕の命に関係なく動いている。では、僕は一体どういう存在なんだと。

■**村上**　哲学少年だったんですね。

■**津川**　いえいえ。ただ子供っぽい単純な疑問なんです。でもサムシング・グレート（村上和雄が提唱する「大自然の見えざる力・何らかの大いなる力」）に与えられた命だとすると、この人生は、自分への「試練」かも知れない。ならばその生き方によって死後の世界に影響があるんじゃないか、この世は仮の世で、死後の世界の方が本物なのではないか、などと。

先日、生物学者の本川達雄先生の「長生きは地球を滅ぼす」というご講演で、ゾウもネズミも等しく心臓の鼓動が約十億回で寿命が尽きるのに、人間だけが大量のエネルギーを消費して長生きしている。世界の人口は70億を超えようとしていて、アフリカや多くの国々では食料、水、エネルギー不足が深刻でたくさんの子供たちが犠牲になって死んでいる。世の役に立たない老人は無駄なエネルギーを使わず、せめて早く死んだほうが地球のためだとおっしゃるんですね。

僕はもう74歳。とっくに死んだほうがいい年齢です。では、残ったこの命をどう使えばいいのか真剣に考えさせられました。

役者としての「人の役」

■**村上**　結論は出ましたか？

■**津川**　利他的遺伝子をフルに活用して生きなきゃ、とは思ったんですが、**でも役者ってのは、果たして人の役に立ってるのかなとも考えましてね。役者の演技は遊び心から生まれます。生産性はゼロ、実業的価値は何もなし。虚業でしかないんです。だから昔は、河原乞食とまで蔑まれたわけです。**

これも津川ゼミで、「世阿弥」や「遊びの哲学」についてご講演をいただき、その遊び心が人生の余暇において観客に「元気を与える」ことができるんだと理解でき、とりあえず役者をやってよかったんだと思うことができました。

3・11からの気付きで始めた勉強会

嬉しくて嬉しくて

■**村上**　元気を与える…

■**津川**　はい。歌舞伎がその理想的な形態ですが、現実では有り得ない大嘘で練りあげられた世界なんですね。しかし、観客はむしろ逆にその大嘘を期待して、まるで本当に起こっていることのように想像して楽しむんですね。非常に残虐な話からも、背筋がゾクッとするカッコよさや美しさを感じ取り楽しむんです。このギャップを面白がる観客の想像力のたくましさが「元気」となり、さらに素晴らしい作品と役者の凄腕に出合うことで、ある時不可能を可能にするような「元気」に昇華することが起こるんですね。

■**村上**　（中略）津川ゼミや探美会との勉強会もその流れで始められたのですか？

■**津川**　きっかけは、3・11の被災者が我慢、忍耐、礼節という美しい心で世界を感激させたことです。

英国のインディペンデント紙が1面を白紙にして真ん中に真赤な日の丸を描き、その中に白抜きで「がんばれ、日本。がんばれ、東北」と日本語で書いてくれた。僕は感激して泣いちゃいました。

イギリスのインディペンデント紙1面

我慢　忍耐　礼節の原点は縄文文化

僕らは敗戦とともに、日本が蔑まれるのをずっと我慢してきた世代で、日本人が世界から尊敬されたり、感激されることは生まれてこの方経験したことがなかったから、ただもう嬉しくて嬉しくて。

そこでハッと気づいたんです。もし外国の役者に、「日本人のあの美意識はどこから生まれたの？」と聞かれたら、いまの僕は何も答えられない。これは恥ずかし過ぎるから勉強しなきゃいけないとね。

■**村上**　それで勉強会を。

■**津川**　「美しい国、日本を取り戻す」をテーマにしていた安部晋三さんを顧問に、日本人の美意識の源泉を探る探美会というゼミを始めたのが2年半くらい前で、これも僕の勘で縄文から始めたのが大当たりでした。

■**村上**　縄文ですか。

■**津川**　縄文土器は世界最古だと知って、その縄文にこそ日本人の叡智が隠されているはずだと。それで考古学者の小林達雄先生をゼミにお招きして、世界に類のない一万年の平和が築かれたことや、大自然に生きとし生けるものすべてに命があり、神が宿るという精霊信仰があったことを教わり、この自然を愛する心にこそ日本人の美意識の原点があると確信しました。

自然現象を素直に受け取った縄文人は、妻が子を産むのを目の当たりにし、その神に近い能力とともに献身的な母性愛に感動したに違いない。だから狩りをしても動物の子供とメスは殺さなかった。これは発掘した骨の調査から明らかです。

火焔型縄文土器と縄文のヴィーナス

少しでも人のために

■**村上**　確かに残された骨を見ればすぐに分かりますね。

■**津川**　子やメスを殺しては種が滅びることを自然から学び、自分以外の命に対する慈悲の心をも育むことができた。それがすべての「命は平等だ」という偉大な利他愛を生み、利己的欲求を「我慢」し、自然の怒りを静かに「忍耐」することもできた。これが東北の被災者があの大津波にもめげず、パンを分け合い互いに助け合った美しい心の源泉となったはずです。

歩けなくなった年寄りを捨てざるを得ない放浪生活から、竪穴式住居で定住するようになり、年寄りを敬い、妻や子を大切にする「礼節」も発達し、一万年の平和という偉業をも成し遂げることができたんじゃないでしょうか。

年老いて一緒に住むようになった老人の智恵が、縄文土器の発明にも繋がったはずです。あの火焔型土器やヴィーナスと呼ばれる美しい土偶をみるにつけ、日本人の美意識の原点は縄文にあるぞ、という思いがますます強くなりました。

■村上　これは非常に面白い。

■**津川**　（中略）元気なうちは一期一会を大切にし、きょう一日の命を充実させて、少しでも人のためにお役に立てることができればと思っています。（後略）

（宮沢賢治の母イチは、「人間というものは、人のために何かしてあげるために生まれてきたのです」と仰せです）

編集後記など

▼サッカーとラグビーは共にイギリス発祥のスポーツだが、相互依存…共存共栄…との仏教精神が根底に色濃くあるスポーツとはどちら？（以下私的偏見を）。

ラグビーの精神は試合終了時に吹かれる「ノーサイド」の笛にあり「試合が終われば勝利の側（サイド）も負けた側（サイド）もない」というもの。しかしこれはサッカー、ラグビーを問わず試合終了後はお互いを讃えている。また「ひとりはみんなのために、みんなはひとり（ひとつの目的）のために」もラグビー精神として有名だが、個人プレーを主とし得点するサッカーと、全く役割の違うフォワードとバックスが共生しつつ得点するラグビーとの違いは明瞭だ。正に役割の違うチーム一員がお互いを生かし合い（ひとりはみんなのために）、お互いの役に立つことを意味し、犠牲的精神をも時に伴う。また故意に相手から反則を取ることはラグビーにはないはずだ。反面、サッカー選手は足を蹴られたふりをしてさぞ痛そうにし、足をかけられたふりをしてわざと倒れるそのセコサは、何とも見苦しい。相互依存、共存共栄とは、やはりラグビーに相応しい？

「この宇宙は単なる物質の機械仕掛けではなく、一つの意志によって貫かれている」ノーベル物理学賞受賞・物理学者・アインシュタイン。
上記本文中「サムシンググレート・何らかの大いなる力」と相似する。法華経で説くところの「久遠のご本仏・寿量ご本仏」であり「妙法蓮華経」である。